



担当=DZHフィナンシャルリサーチ・石原敬子

Refinitiv(リフィニティブ)はロンドン証券取引所グループ(LSEG)傘下の金融情報提供会社です

知りたい
投信なるほど
リッパー

投信市場が膨らんだ2021年 資金流入と本数整理で寅年飛躍？

2021年の投資信託市場は良いことづくめでした。好記録の数々をご紹介します。

●投信の本数

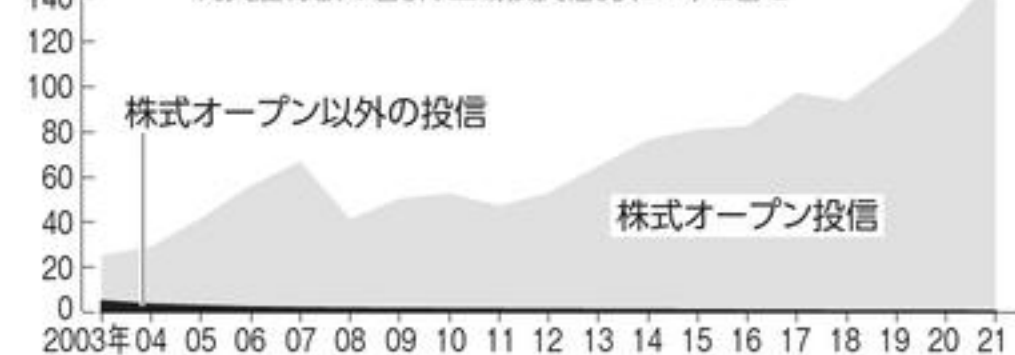
MRF(マネー・リザーブ・ファンド)などの公社債投信などを含めた、国内で販売されている全ての投信の本数は、21年末時点で5911本でした。株式オープン投信は5726本。18~20年の3年間は連続で減少してきましたが、21年は歯止めがかかりました=左下グラフ。

●資金動向

どの月も国内投信市場への資金が流入超過となりました(12月はリッパー推計)。設定から解約・償還を差し引いた純流入額の年間累計は、ETF(上場投資信託)以外の株式オープン投信が9.57兆円。07年の14.41兆円以来の高水準です。

日本銀行は、3月の金融政策決定会合で、ETFなどの買い入れ方針を見直し、市場がかなり不安定になった場合

投信市場の残高は3年連続で最高を更新
国内で販売されている投信の各年末時点における純資産総額の合計。上場投資信託(ETF)を含む



だけ買うことにしました。

その後も700億円程度のETF買い入れを数回行い、年間の買い入れ額は8734億円。前年の約7兆円から9割近い減少で、日銀からの資金は細ったものの、機関投資家からの設定などにより、ETFは2.7兆円の純流入となりました。

●純資産総額

国内で販売されている株式オープン投信の純資産総額は、21年末時点で149.5兆円。データをさかのぼることができる2003年以降の年末残高の最高額を、3年連続で更新しました=右上グラフ。オープン投信全体は150兆円の

大台乗せとなっています。

●まとめ

純資産総額は、新たな資金が入れば増えますが、値上がりでも増加します。先週お伝えしたように、21年は運用成績が好調でした。

そして乱立気味だった投信の本数は、6000本を少し下回るあたりで落ち着いています。「回転売買さようなら、資産形成こんにちは」となる転機を迎えたと言って良いかもしれません。

好事魔多しとも言いますが、寅年は、魅力的なロングセラー投信が増え、「虎の子」を育てる年になるよう期待しています。

投信の本数は淘汰され横ばいに

